

授業科目	国語科教育法 I						
担当教員	古賀洋一						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021070
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭(国語)一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕 <p>○高等学校教諭(国語)一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕 						

授業の概要	<p>国語科教育の歴史的変遷と構造を体系的に理解するとともに、授業構想の起点となる教材と学習者について理解を深めることを目的とする。本科目では特に「読むこと」領域を対象とし、教材分析と指導内容の設定の仕方、授業を構想・改善・評価するための学力評価の方法について理解を深めていく。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の目標・内容の変遷と系統性を把握し、現代的な授業の方向性を理解することができる。 ・文学的文章教材、説明的文章教材、古文・漢文教材を対象として、教材分析の方法を理解するとともに、実際の教材に即して指導内容を設定することができる。 ・学習者の記述や発話から学力を評価し、授業づくりに役立てる方法を理解することができる。
授業計画	<p>第1回 中学校学習指導要領の歴史的変遷—目標・内容を中心に—</p> <p>第2回 中学校学習指導要領にみる目標・内容の系統性—小学校からの系統性も視野に入れて—</p> <p>第3回 高等学校学習指導要領の歴史的変遷—科目編成・目標・内容を中心に—</p> <p>第4回 高等学校学習指導要領にみる目標・内容の系統性—中学校からの系統性も視野に入れて—</p> <p>第5回 国語教科書の歴史的変遷—各年代の教科書は指導要領をいかに具体化してきたか—</p> <p>第6回 現代的な授業の方向性と授業の基本用語—PISA型読解力、アクティブラーニング—</p> <p>第7回 文学的文章指導の内容と教材研究の方法</p> <p>第8回 説明的文章指導の内容と教材研究の方法</p> <p>第9回 古文・漢文指導の内容と教材研究の方法</p> <p>第10回 学習者を看取り、授業を構想するための基礎理論</p> <p>第11回 学力評価の目的と枠組み—診断的、形成的、総括的評価—</p> <p>第12回 学習者研究①—学習者の初発の感想をどう評価し、授業構想につなげるか—</p> <p>第13回 学習者研究②—学力はどのように形成されるのか—</p> <p>第14回 学習者研究③—学習の成果をどう評価し、授業改善に役立てるか—</p> <p>第15回 テストを通じた学力評価</p> <p>定期試験</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』 ・光村図書の中学校国語教科書1年～3年
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・山元隆春編著『教師教育講座第12巻 中等国語教育』協同出版、2014年 ・井上尚美『思考力育成への方略—メタ認知・自己学習・言語論理—<増補新版>』明治図書、2007年 ・浜本純逸監修『文学の授業づくりハンドブック第4巻 中・高等学校編』溪水社、2010年
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験(50%)：学習指導要領、教材分析法、学力評価法の理解度を評価する。 ・レポート(50%)：授業記録に即して学力形成の過程と到達度を分析する力を評価する。
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none"> ・一回一回の授業の復習をしっかりと行ってください。

履修上の 指導・留意点	<ul style="list-style-type: none">・国語の教員免許を取得しようと考えている人は必修です。・本科目を履修した成果は「履修カルテ」にまとめ、授業で用いた資料は「学習ポートフォリオ」に とじておくこと。・なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関(中学校)での勤務経験を 生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。
----------------	---

授業科目	国語科教育法Ⅱ						
担当教員	寺本学						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021080
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭(国語)一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕 <p>○高等学校教諭(国語)一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕 						

授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と学習していくために必要なことは、目の前の生徒をどう理解していくかにかかっている。その教師としての基本姿勢・考え方を理解し、身に付けることができるようにする。 ・日々の授業で、生徒に継続的に実践させていくためには、まず、教師が実践し、教材に対する理解を深めたり、指導方法を工夫したりできなければならない。それを講義と演習によって理解していく。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科教師として、基本的に身につけておくべき考え方を理解することができる。 ・授業を実践するために必要な様々な技能(授業力)を理解し、身に付けることができる。
授業計画	<p>第1回 国語科授業を形成している要素(指導技術)</p> <p>第2回 国語科授業を形成している要素(教材研究、教材分析の技術)</p> <p>第3回 国語科授業の基本(音読の教材研究)</p> <p>第4回 国語科授業の実践(音読の模擬授業)</p> <p>第5回 国語科授業の基本(板書の教材研究)</p> <p>第6回 国語科授業の実践(板書の模擬授業)</p> <p>第7回 国語科授業の基本(スピーチの教材研究)</p> <p>第8回 国語科授業の実践(スピーチの模擬授業)</p> <p>第9回 国語科授業の基本(書写の教材研究)</p> <p>第10回 国語科授業の実践(書写の模擬授業)</p> <p>第11回 国語科授業を形成している要素(学習者理解と評価)</p> <p>第12回 年間指導計画と学習指導案の作成について</p> <p>第13回 学習指導案の作成の技術(定義と条件、形式)</p> <p>第14回 学習指導案と学習指導要領(目標設定と単元構成)</p> <p>第15回 学習指導案の具体例と分析</p> <p>定期試験</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校で使用される国語教科書(1年)光村図書出版、書写(1年)東京書籍 ・「漢字練習字典」新学社
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・島根大学教育学部附属中学校、松江市立第三中学校、松江市立鹿島中学校で作成した「生徒の学習記録綴」 ・安居總子著(2013)『中学校・国語科 今、「国語」を問う—教師のプロフェッショナルリズム—』東洋館出版社 ・倉澤栄吉著(1987)『新訂 国語の教師 指導法の手引き』国土社
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験(50%)：国語科授業に必要な教師の基本姿勢・考え方と、模擬授業を通して考えた指導技術・指導方法の工夫についての理解度を評価する。 ・レポート(50%)：毎回の講義の内容理解の程度、及び生徒の実態を踏まえた学習指導案の作成力を評価する。
自己学習に関する指針	

履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（附属中学校、松江市公立中学校での中学校国語科教諭）としての勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。
----------------	--

授業科目	国語科教育法Ⅲ						
担当教員	寺本学						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021090
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭(国語)一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕 <p>○高等学校教諭(国語)一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕 						

授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・授業作りの基本は、生徒理解から始まる。ここでは、具体的な授業実践の紹介と模擬授業を通して、学習の展開の仕方や身につけさせたい国語の力への理解を深めていく。 ・実際の教科書に採用されているさまざまな教材に触れ、その教材をどのように活用し生徒に提示していけば国語の力を付けていくことになるのかを、講義と演習を通して理解を深めていく。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科教師の基本姿勢をいかしながら、具体的な教材をもとに授業作りを演習する。 ・身に付けた技能をもとに教材化を工夫し、お互いに情報交換できる。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・自己紹介によるコミュニケーション演習</p> <p>第2回 授業と学習指導案の改善</p> <p>第3回 学習者理解の在り方と方法(学習記録を活かして)</p> <p>第4回 単元学習の基本的な考え方と方法</p> <p>第5回 国語教育の学習材(機能と条件)</p> <p>第6回 生徒の実態に応じた手立て</p> <p>第7回 「話すこと・聞くこと」教師のスピーチの教材研究(授業に生きるスピーチのポイント)</p> <p>第8回 「話すこと・聞くこと」教師のスピーチ模擬授業(スピーチで育む力と評価)</p> <p>第9回 「読むこと」を中心とした授業の教材研究(過去の実践の紹介とねらう力)</p> <p>第10回 「読むこと」を中心とした模擬授業(実際の教材を使つての模擬授業)</p> <p>第11回 「書くこと」を中心とした授業の教材研究(過去の実践の紹介とねらう力)</p> <p>第12回 「書くこと」を中心とした模擬授業(実際の教材を使つての模擬授業)</p> <p>第13回 観察実習の留意点と課題(授業の見方)</p> <p>第14回 観察実習</p> <p>第15回 観察実習の考察と本実習に向けての課題</p> <p>定期試験</p>
テキスト	・中学校の国語科で使用されている教科書(1, 2, 3年) 光村図書出版
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・安居總子著(2013)『中学校・国語科 今、「国語」を問う—教師のプロフェッショナルリズム—』東洋館出版社 ・大村はま著(1994)『新編 教室をいきいきと』1巻, 2巻 ちくま学芸文庫 ・『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料[中学校 国語科]』 東洋館出版社
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験(50%)：毎回の講義の内容理解の程度、学習者の実態を視野に入れた授業設計についての理解度を評価する。 ・模擬授業と観察実習(50%)：教材研究の的確さと教材化の工夫、模擬授業と観察実習を通して考えた授業改善の視点についての理解度を評価する。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関(附属中学校、松江市公立中学校での中学校国語科教諭)としての勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	国語科教育法Ⅳ						
担当教員	古賀洋一						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021100
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭(国語)一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕 <p>○高等学校教諭(国語)一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕 						

授業の概要	教材分析から学習者主体の授業を構想するための指導方法を理解するとともに、それを取り入れた授業を展開する力を養うことを目的とする。本科目では、対話的な授業における教師の役割に注目し、発問と学習活動の効果的な組み立て方についての理解を深めていく。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各指導領域の基本的、先進的な指導方法を理解することができる。 ・指導案作成の手順を理解し、基本的、先進的な指導方法を取り入れた授業を構想することができる。 ・作成した指導案にもとづき、学習者主体の対話的な授業を展開することができる。
授業計画	<p>第1回 文学的文章教材の実践事例—「解釈の交流」を軸とした授業—</p> <p>第2回 説明的文章教材の実践事例—「クリティカル・リーディング」を取り入れた授業—</p> <p>第3回 「書くこと」領域の教材開発と実践事例—「インベンション指導」「看図作文」—</p> <p>第4回 「話すこと・聞くこと」領域の教材開発と実践事例—論理的コミュニケーションの育成—</p> <p>第5回 比べ読みの実践事例</p> <p>第6回 単元学習の理論と実践事例</p> <p>第7回 国語科授業にICTを導入することの意義と具体的な実践事例</p> <p>第8回 指導案作成の手順①—コマの授業の構想—</p> <p>第9回 指導案作成の手順②—単元全体の構想—</p> <p>第10回 模擬授業①—文学的文章教材—</p> <p>第11回 模擬授業②—説明的文章教材—</p> <p>第12回 模擬授業③—古文・漢文教材—</p> <p>第13回 模擬授業④—「書くこと」領域—</p> <p>第14回 模擬授業⑤—「話すこと・聞くこと」領域—</p> <p>第15回 模擬授業⑥—複数教材の活用—</p> <p>定期試験</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』 ・第一学習社の高等学校国語教科書「国語総合」「現代文B」「古文B」「国語表現」
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国語教育学会編『豊かな言語活動が拓く 国語単元学習の創造 I 理論編』東洋館出版社、2010年 ・浜本純逸監修・田中宏幸編『ことばの授業づくりハンドブック 中学校・高等学校「書くこと」の学習指導—実践史をふまえて—』溪水社、2016年
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験(50%)：各領域の指導方法の理解度を評価する。 ・模擬授業(50%)：教材分析的確さと指導案の適切さ、模擬授業での対話的振る舞いを評価する。
自己学習に関する指針	・模擬授業の計画には時間がかかります。授業時間外でも相談を受け付けますので、一緒に考えていきましょう。
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校国語の教員免許を取得しようと考えている人は必修です。 ・本科目を履修した成果は「履修カルテ」にまとめ、授業で用いた資料は「学習ポートフォリオ」にと

じておくこと。

・なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関(中学校)での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	英語科教育法 I						
担当教員	田中芳文						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021110
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭（英語）一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕 <p>○高等学校教諭（英語）一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕 						

授業の概要	学習指導要領の記述内容を理解したうえで、英語教育学が扱う諸分野について書かれたテキストの内容を理論的側面と教育実践的側面から考察する。
授業の到達目標	英語教員にとって必須とされる英語教育学の各分野について正確に理解する。英語教育の目的・目標、学習指導要領、学習者、英語教員、第2言語習得、英語教授法、コミュニケーション能力、音声指導、文字指導、5領域（聞く・読む・話す（やり取り・発表）・書く）指導、複数領域統合言語活動、文法指導、語彙・表現指導、異文化理解指導、小学校の英語教育、教材研究、ICTの活用、ALT等とのチームティーチング、測定・評価をテーマとして取り上げる。
授業計画	<p>第1回 英語教育の目的と目標（1）中学校学習指導要領</p> <p>第2回 英語教育の目的と目標（2）高等学校学習指導要領</p> <p>第3回 学習者の特性・習熟度について（学習者の要因）</p> <p>第4回 英語教員について（英語教師論）</p> <p>第5回 第2言語習得と英語教育</p> <p>第6回 英語教授法とコミュニケーション能力の育成</p> <p>第7回 音声の指導、文字の指導</p> <p>第8回 5領域（聞くこと、読むこと、話すこと（やり取り・発表）、書くこと）の指導</p> <p>第9回 複数の領域を統合した言語活動</p> <p>第10回 文法の指導</p> <p>第11回 語彙・表現の指導</p> <p>第12回 異文化理解に関する指導</p> <p>第13回 小学校の英語教育、小・中・高等学校を通じた英語教育</p> <p>第14回 教材研究、ICTの活用、ALT等とのチームティーチング</p> <p>第15回 測定と評価</p> <p>定期試験</p>
テキスト	<p>高梨康雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』改訂版（金星堂）</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂出版）</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』（開隆堂出版）</p> <p>その他英文配布教材</p>
参考文献	<p>H. Douglas Brown, Principles of Language Learning and Teaching. 6th ed. Pearson.</p> <p>H. Douglas Brown, Teaching by Principles. 4th ed. Pearson.</p>
評価方法	平常点20点、課題レポート20点、定期試験60点の合計100点で総合的に評価する。
自己学習に関する指針	授業前に、テキストの該当箇所と配布教材（英文）を読んでおくこと。
履修上の指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室・e-mailで対応します。

授業科目	英語科教育法Ⅱ						
担当教員	猫田英伸						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021120
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭（英語）一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕 <p>○高等学校教諭（英語）一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕 						

授業の概要	<p>主に中学校の英語の授業で取り扱う言語活動を、学習者の学習レベルに応じてどのように組み立て、指導していくかについて理解することを目標とする。学習指導要領に示されている言語活動を各技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）のメカニズムの観点から捉え直し、その効果的な指導方法について学ぶ。学習者（生徒）の言語材料に関する知識を、運用を前提とするコミュニケーション能力へとつなげていくための言語活動のあり方と、その中で求められる英語教員の役割について理解する。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育場面を想定し、学習者の学習段階に応じて指導計画を立案する力を身に付ける。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 英語授業内の談話（教師と学習者のやりとり）</p> <p>第3回 英語授業内の談話の分析</p> <p>第4回 指導計画・評価計画（年間計画、単元計画、授業計画）</p> <p>第5回 1時間の授業の組み立て（ウォームアップ）</p> <p>第6回 1時間の授業の組み立て（導入）</p> <p>第7回 1時間の授業の組み立て（展開：聴解と読解、発問、説明）</p> <p>第8回 1時間の授業の組み立て（練習：機械的練習、有意味的練習、伝達練習）</p> <p>第9回 リスニングのメカニズム</p> <p>第10回 リーディングのメカニズム</p> <p>第11回 スピーキングのメカニズム</p> <p>第12回 ライティングのメカニズム</p> <p>第13回 単元の指導案と本時案の書き方（教材研究と指導目標・評価規準の設定について）</p> <p>第14回 単元の指導案と本時案の書き方（教材研究と単元の指導の流れについて）</p> <p>第15回 単元の指導案と本時案の書き方（教材研究とテストで用いる評価材開発について）</p> <p>定期試験</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』 ・国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 外国語】』
参考文献	特になし
評価方法	定期試験（60%）、指導案作成課題（40%）
自己学習に関する指針	授業中の指示に従い、テキストの該当箇所を読んでくること。
履修上の指導・留意点	<p>授業中、ペアや小グループで活動してもらうことがある。</p> <p>なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（高等学校）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。</p>

授業科目	英語科教育法Ⅲ						
担当教員	猫田英伸						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021130
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭（英語）一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕 <p>○高等学校教諭（英語）一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕 						

授業の概要	<p>中学校の英語教員にとって必要な基本的な知識および指導技術を身に付け、実際に授業を行う力を養うことを目標とする。第1回から第9回までは受講者は1名ずつ英語の授業の各ステップを実際の中学校の教科書に基づいてマイクロティーチングの形で実践する。第10回以降では受講者はペアまたはグループになり、中学校の教科書のある単元を取り出して共同で単元の指導案と本時案の作成を行い、実際にほぼ1時間分の授業を通して実践する。この「やってみる」プロセスの中で、クラスルームイングリッシュの使い方、明瞭な指示の出し方、教室内の立ち位置、目線の配り方、指名の仕方などの実践的な技術を幅広く身に付ける。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育場面を想定し、実際に指導計画を立案して授業を実践する力を身に付ける。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 マイクロティーチング（ウォームアップ：Classroom English）前半：受講者が1名ずつ実践</p> <p>第3回 マイクロティーチング（ウォームアップ：帯活動）後半：受講者が1名ずつ実践</p> <p>第4回 マイクロティーチング（導入：Oral Introduction）前半：受講者が1名ずつ実践</p> <p>第5回 マイクロティーチング（導入：Processing Instruction）後半：受講者が1名ずつ実践</p> <p>第6回 マイクロティーチング（展開：発問と説明）前半：受講者が1名ずつ実践</p> <p>第7回 マイクロティーチング（展開：聴解と読解の指導）後半：受講者が1名ずつ実践</p> <p>第8回 マイクロティーチング（練習：機械的練習と有意味的練習）前半：受講者が1名ずつ実践</p> <p>第9回 マイクロティーチング（練習：伝達練習）後半：受講者が1名ずつ実践</p> <p>第10回 共同立案授業の計画（ペア・グループ活動：教材研究、単元と本時の指導計画の立案）</p> <p>第11回 共同立案授業の準備（ペア・グループ活動：教材・教具開発、授業実践の練習）</p> <p>第12回 模擬授業（1～2ペア・グループが実践：中学1年生の入門期を想定した小学校での英語学習を踏まえた指導とその留意点）</p> <p>第13回 模擬授業（1～2ペア・グループが実践：中学1年生を想定した指導とその留意点）</p> <p>第14回 模擬授業（1～2ペア・グループが実践：中学2年生を想定した指導とその留意点）</p> <p>第15回 模擬授業（1～2ペア・グループが実践：中学3年生を想定した指導とその留意点）</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『中学校学習指導要領解説』 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』 ・国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 外国語】』
参考文献	特になし
評価方法	指導案作成課題（60%）、模擬授業（40%）
自己学習に関する指針	10分程度のマイクロティーチング（個人）や50分の模擬授業（ペア・小グループ）を準備のうえ、実演してもらいます。
履修上の指導・留意点	<p>「英語科教育法Ⅱ」を履修していること。</p> <p>なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（高等学校）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。</p>

授業科目	英語科教育法Ⅳ						
担当教員	田中芳文						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021140
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭（英語）一種免許状≪教職に関する科目≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕 <p>○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教職に関する科目≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕 						

授業の概要	学習指導要領の理解、教科用図書の比較分析、学習指導案の作成、教材作成、評価方法の理解、模擬授業を行う。
授業の到達目標	中学校と高等学校の英語教員にとって必要な基本的知識と指導技術を学び、実際に授業を行う実践力を身に付ける。学習指導要領、教科用図書研究、学習指導案作成、教材作成、評価方法、模擬授業をテーマとして取り上げる。
授業計画	<p>第1回 中学校学習指導要領 外国語編</p> <p>第2回 高等学校学習指導要領 外国語編・英語編</p> <p>第3回 教科用図書の分析・研究 読解指導の視点から</p> <p>第4回 教科用図書の分析・研究 語、連語及び慣用表現の指導の視点から</p> <p>第5回 教科用図書の分析・研究 文構造と文法事項の指導の視点から</p> <p>第6回 教科用図書の分析・研究 コミュニケーション指導の視点から</p> <p>第7回 教科用図書の分析・研究 言語活動の視点から</p> <p>第8回 学習指導案の作成 中学校「英語」</p> <p>第9回 学習指導案の作成 高等学校「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」</p> <p>第10回 学習指導案の作成 高等学校「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」</p> <p>第11回 教材の作成</p> <p>第12回 評価の方法</p> <p>第13回 模擬授業 復習と導入</p> <p>第14回 模擬授業 展開</p> <p>第15回 模擬授業 整理とまとめ</p>
テキスト	<p>加藤茂夫ほか『英語科教育実習ハンドブック』第4版（大修館書店）</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂出版）</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』（開隆堂出版）</p> <p>中学校教科用図書、高等学校教科用図書</p>
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	平常点30点、模擬授業40点、課題レポート30点の合計100点で総合的に評価する。
自己学習に関する指針	授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むことが望ましい。
履修上の指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室・e-mail に対応します。

授業科目	現代教職論						
担当教員	小柳正司						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021010
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭（国語・英語）一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義等に関する科目 〔教職の意義及び教員の役割〕 〔教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）〕 〔進路選択に資する各種の機会の提供等〕 <p>○高等学校教諭（国語・英語）一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義等に関する科目 〔教職の意義及び教員の役割〕 〔教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）〕 〔進路選択に資する各種の機会の提供等〕 						

授業の概要	教員養成・研修の仕組みと教職関連の法令・制度について基礎知識を学ぶとともに、学校段階に応じた教師の役割、授業実践論、求められる教員像と教員の資質・能力等について、関係資料や事例等を通して学んでいく。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義、教員の役割と職務内容等について基礎的・基本的事項を理解する。 ・教員の専門力量について理解する。 ・教職への意欲を高め、適性を自覚する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 教職の意義と教員の役割</p> <p>第3回 学校と教員の歴史——教師像の変遷</p> <p>第4回 教員養成のカリキュラム</p> <p>第5回 教師教育の制度</p> <p>第6回 教師教育制度の改革動向——変わりゆく社会の中での学校と教師</p> <p>第7回 教師に求められる資質と能力——教職のエートス</p> <p>第8回 教員の仕事と役割——「チーム学校」への対応</p> <p>第9回 教員の地位と身分</p> <p>第10回 教科指導と教師</p> <p>第11回 生徒指導と教師</p> <p>第12回 教員の研修</p> <p>第13回 教員社会と教師文化</p> <p>第14回 教師のライフコース</p> <p>第15回 教職への進路</p>
テキスト	適宜、プリントを使用する。
参考文献	<p>『図解・表解 教育法規』教育開発研究所</p> <p>秋田喜代美・佐藤学編『新しい時代の教職入門 改訂版』有斐閣</p> <p>久保富三雄・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房</p> <p>その他は、授業内でそのつど指示する。</p>
評価方法	<p>課題レポート3回（60%）</p> <p>授業レポート毎回（40%）</p>
自己学習に関する指針	授業レポートでは毎回、授業終了時に授業内容の要点をまとめてもらいます。課題レポートは主に調べ学習の報告です。

履修上の 指導・留意点	授業ではパワーポイント(スライド)を使って説明をおこないます。板書はほとんどしませんので、各自でしっかりノートを取って、あとで内容を整理するようにしてください。
----------------	--

授業科目	教育原理						
担当教員	小柳正司						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021020
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭(国語・英語)一種免許状≪教職に関する科目≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の基礎理論に関する科目 〔教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想〕 <p>○高等学校教諭(国語・英語)一種免許状≪教職に関する科目≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の基礎理論に関する科目 〔教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想〕 						

授業の概要	<p>教育を広く人間と社会とのかかわりの中で捉えることを通して、教育の意義、理念と目的、及び今日の課題について考察を進める。内容的には、発達と教育の諸理論、子ども・青年像の変遷と現代教育の諸課題、学校と教育をめぐる近代とポスト近代、わが国と諸外国における現代教育改革の動向等について扱う。</p>
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の本質、意義、理念と目的について理解する。 ・教育の歴史と思想の変遷を理解する。 ・教育という視点に立って人間のもつ可能性や多面性を発見する。 ・自己形成のこれまでの振り返り、自己認識をすすめ、これからのキャリアデザインを描く。
授業計画	<p>第1回 教育とは何か——語義から探る教育の深層</p> <p>第2回 形成と教育——人はなぜ教育を必要とするか</p> <p>第3回 文化と教育——人間の能力をどうとらえるか</p> <p>第4回 教育の原初形態——断絶と飛躍の教育</p> <p>第5回 学校のない教育——民衆の産育習俗の世界</p> <p>第6回 「子ども」の発見、「家族」の誕生</p> <p>第7回 近代学校の成立——見習修行から学校教育へ</p> <p>第8回 人間形成空間の変容——わが子の教育から人間一般の教育へ</p> <p>第9回 変貌する家族と家庭教育——新中間層の教育戦略</p> <p>第10回 教育と平等——教育による平等の実現</p> <p>第11回 教育の機会均等</p> <p>第12回 生涯学習と学校教育</p> <p>第13回 インクルーシブ教育の現状と課題</p> <p>第14回 人権教育をみつめる</p> <p>第15回 教育改革の動向とキャリア形成</p>
テキスト	
参考文献	小柳正司『教育原論の試み』あいり出版
評価方法	<p>毎回の確認テスト(60%)</p> <p>課題レポート2回(40%)</p>
自己学習に 関する指針	<p>毎回、授業開始時に前回授業の内容について確認テストをします。(10分程度)</p> <p>課題レポートでは、授業の内容を踏まえた小論文を作成してもらいます。(2回)</p>
履修上の 指導・留意点	<p>授業ではパワーポイント(スライド)を使って説明をおこないます。板書はほとんどしませんので、各自でしっかりノートを取って、あとで内容を整理するようにしてください。</p>

授業科目	教育心理学						
担当教員	橋本由里、山田洋平						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021030
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭（国語・英語）一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の基礎理論に関する科目 〔幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童お酔い生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）〕 <p>○高等学校教諭（国語・英語）一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の基礎理論に関する科目 〔幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童お酔い生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）〕 						

授業の概要	発達、学習、記憶、動機づけ、学級集団の心理、教育評価など教育心理学の基本的事項について理解するとともに、教育現場における心理的諸問題について関心を深める。また、性格特性と適応、知能とコミュニケーションスキル、社会性と感情制御について理解を深め、現代の教育場面における問題行動とその対処法について考察する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学の基礎知識を深めることができる。 2. 学級集団の心理や機能、人間関係について理解できる。 3. 教育現場での諸問題について関心を深め、考察ができる。
授業計画	<p>第1回 教育心理学とは（担当：橋本、山田）</p> <p>第2回 発達と学習のメカニズム（1）注意と認知機能の発達段階（担当：橋本、山田）</p> <p>第3回 発達と学習のメカニズム（2）学習理論、脳と神経系の発達（担当：橋本、山田）</p> <p>第4回 記憶 記憶のメカニズム（担当：橋本、山田）</p> <p>第5回 共同注意とコミュニケーション（担当：橋本、山田）</p> <p>第6回 性格特性と学校適応（担当：橋本、山田）</p> <p>第7回 学級集団（1）教師生徒関係、友人関係、学級雰囲気（担当：山田）</p> <p>第8回 学級集団（2）いじめ、不登校、引きこもり（担当：山田）</p> <p>第9回 社会性（1）向社会性、道徳性、自尊感情（担当：山田）</p> <p>第10回 社会性（2）社会性と情動知能の育成（担当：山田）</p> <p>第11回 知能 知能の諸理論、思考、創造性（担当：山田）</p> <p>第12回 教育評価 教育活動における評価の意味と方法（担当：山田）</p> <p>第13回 障害（1）障害のある児童及び生徒の心理教育アセスメント（担当：山田）</p> <p>第14回 障害（2）障害のある児童及び生徒の支援の方法（担当：山田）</p> <p>第15回 教育現場における諸問題（担当：山田）</p>
テキスト	中澤潤 編「よくわかる教育心理学」(2008) ミネルヴァ書房
参考文献	<p>森敏昭・青木多寿子・淵上克義（編）よくわかる学校教育心理学（2010）ミネルヴァ書房</p> <p>日本心理学会（監修）箱田裕司・遠藤利彦（編）本当のかしこさとは何か—感情知性（EI）を育む心理学—(2015) 誠信書房</p>
評価方法	<p>提出物（30%）、レポート（70%）の総合評価による。</p> <p>授業では、必要に応じてグループワークを行う。</p>
自己学習に関する指針	・配布資料および記載された参考文献を読み、復習に役立てる。
履修上の指導・留意点	・グループワークには積極的に参加すること。

授業科目	教育経営論						
担当教員	牧瀬翔麻						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021040
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭(国語・英語)一種免許状《教職に関する科目》</p> <p>・教育の基礎理論に関する科目</p> <p>教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)</p> <p>○高等学校教諭(国語・英語)一種免許状《教職に関する科目》</p> <p>・教育の基礎理論に関する科目</p> <p>教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)</p>						

授業の概要	<p>本授業科目では、学校が組織として求められる様々な経営課題について、受講者とともに議論する。具体的には、各回一つの学校や教員、生徒に関するトピックを取り上げ、それらが学校の教育目的の達成にどのようなつながるかを考えていく。そのことを通して、受講者がこれまで触れることの少なかった、学校の経営的側面の理解を促す。また、本授業科目では、学校教育が公教育として行われていることから、社会にとって学校が果たす使命と役割の重要性についても考えを深めることを目指す。</p>
授業の 到達目標	<p>本授業科目の到達目標は、受講者が「学校教育における、教育の目的を達成するための経営的営為の重要性を理解すること」である。</p> <p>本授業科目のテーマは、「公教育としての学校教育」であり、(1)学校が社会的使命を持った組織であること、(2)その一員である教員に求められること、(3)具体的な経営課題を取り上げる。受講者は、それらについて理解し、どのような特徴があるか説明できるようになることを目指す。</p>
授業計画	<p>第1回 学校は何のためにあるのか：教育基本法、学校教育法</p> <p>第2回 学校では何が教えられるのか：学校教育法、学習指導要領</p> <p>第3回 先生とは何者か：教育職員免許法、教育公務員特例法、地方公務員法</p> <p>第4回 よい先生になるためには：教員の資質・能力、「学び続ける教師」</p> <p>第5回 教えるだけが先生の仕事ではない：校務分掌</p> <p>第6回 学校はどのような組織なのか：学校組織論</p> <p>第7回 先生だけでは学校はうまくいかない：チームとしての学校</p> <p>第8回 よい学校をどう作るか：学校評価、カリキュラム・マネジメント</p> <p>第9回 いろいろな「生徒」がいる(1)：特別支援教育</p> <p>第10回 いろいろな「生徒」がいる(2)：外国とのつながりのある生徒(日本語指導)</p> <p>第11回 「生徒」が安心して学べるためには(1)：いじめ防止対策推進法(生徒指導)</p> <p>第12回 「生徒」が安心して学べるためには(2)：学校の危機管理</p> <p>第13回 なぜ学校と地域が連携するのか(1)：コミュニティ・スクール</p> <p>第14回 なぜ学校と地域が連携するのか(2)：学校を核とした地域づくり</p> <p>第15回 学校教育の限界を考える：学校がない世界はどのような世界か(総括討議)</p>
テキスト	特になし
参考文献	村上祐介・橋野晶寛『教育政策・行政の考え方』有斐閣、2020年。
評価方法	小レポート(75点)、授業中の議論への貢献(25点)
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	教育課程論						
担当教員	山根俊喜						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021050
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭(国語・英語)一種免許状≪教職に関する科目≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の基礎理論に関する科目 〔教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)] <p>○高等学校教諭(国語・英語)一種免許状≪教職に関する科目≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の基礎理論に関する科目 〔教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)] 						

授業の概要	教育課程の意義、近代学校における教育課程の歴史、現代の教育課程開発の動き、教育課程の編成原理、類型、現行の教育課程(学習指導要領を中心とする)の基本的考え方と特徴と改革動向、そして学校での教育課程編成の課題とカリキュラム・マネジメントについて概説する。
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の意義を、日本の教育課程史や諸外国の教育課程との比較を通じて理解する。 ・教育課程の意義を、現代的教育課題への対応という点から理解する。 ・教育課程編成の理論と方法、教育課程のマネジメントについて理解する。 ・現代の中等教育における教育課程の課題と改革方向について理解する。
授業計画	<p>第1回 教育課程の意義および教育課程研究の意味</p> <p>第2回 教育課程の編成原理：分化と統合、学力と人格、生活と科学、個別化と協同化</p> <p>第3回 教育課程の諸類型(1)：教科カリキュラムと経験カリキュラム</p> <p>第4回 教育課程の諸類型(2)：隠れたカリキュラム／履修主義と修得主義／羅生門的アプローチと工学的アプローチ</p> <p>第5回 教育課程の評価とカリキュラム・マネジメント</p> <p>第6回 教育課程の歴史(1)：教科カリキュラムの成立</p> <p>第7回 教育課程の歴史(2)：経験カリキュラムの主張：コア・カリキュラム、合科学習、クロスカリキュラー的テーマ、総合的学習</p> <p>第8回 教育課程の歴史(3)：戦前日本の教育課程</p> <p>第9回 教育課程の歴史(4)：戦後日本の教育課程：学習指導要領の展開を中心に(1968まで)</p> <p>第10回 教育課程の歴史(5)： 同上 (1998まで)</p> <p>第11回 現行日本の教育課程(1)：知識基盤社会と生きる力、確かな学力</p> <p>第12回 現行日本の教育課程(2)：コンピテンシー・ベースの教育課程改革</p> <p>第13回 教育課程と教育環境－学校建築・教室・学級編成・教授組織・教具と施設－</p> <p>第14回 教科外のカリキュラム－教科外の諸活動の教育課程化の意味－</p> <p>第15回 学校を基盤とした教育課程－変容する社会と学校をつなぐ</p> <p>定期試験</p>
テキスト	田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵『新しい時代の教育課程 第4版』2018、有斐閣
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『中学校学習指導要領』 ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』 ・文部科学省『高等学校学習指導要領』 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総則編』
評価方法	レポート(40点)、期末試験(60点)
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	特別支援教育論						
担当教員	内山仁志、西村健一						
科目分類	資格・免許	授業時間	15	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	自由	単位数	1	授業コード	M3021055
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭(国語・英語)一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の基礎理論に関する科目 <p>○高等学校教諭(国語・英語)一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の基礎理論に関する科目 						

授業の概要	<p>特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解をするとともに、特別支援教育における教育課程及び具体的な支援の方法を学ぶ。また、母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援についても理解をする。</p>
授業の 到達目標	<p>通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 特別支援の対象となる幼児、児童及び生徒の理解と教育システムの概要(担当：内山) 第2回 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等の障害児・者の生理・心理・病理(担当：内山) 第3回 発達障害及び重複障害児・者の生理・心理・病理(担当：内山) 第4回 障害はないが特別な教育的ニーズのある児童生徒の実態とその支援及び課題(担当：内山) 第5回 教育現場における特別支援教育の支援の実際について(担当：西村) 第6回 「通級における指導」と「自立活動」について(担当：西村) 第7回 「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」の運用と実際(担当：西村) 第8回 地域におけるチーム学校の考え方と実際について(担当：西村) 定期試験</p>
テキスト	<p>授業中、適宜印刷資料等を配布する。</p>
参考文献	<p>特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領 (文部科学省HP http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm) 特別支援学校学習指導要領解説(自立活動編・総則編) (文部科学省HP http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm)</p>
評価方法	<p>毎回提出の授業レポート(40点)、期末課題(60点)</p>
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	道徳の理論と指導法						
担当教員	塩津英樹						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021065
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語・英語)一種免許状《教職に関する科目》 ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法						

授業の概要	本科目は、道徳教育に関する理論、歴史、制度、学習指導要領、中学校の発達段階を踏まえた指導法などについて理解を深め、実際に中学校で「特別の教科 道徳」の授業を構想できるようになることを目標とする。グローバル化する現代社会においては、“様々な価値観の存在を認め、互いに尊重し合うこと”のできる資質能力の育成が、これまで以上に重視されている。授業では、このような資質能力の育成に向けて有効な道徳の授業の在り方について講義する。
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の意義、道徳教育の歴史、学習指導要領、子供の道徳性の発達について理解する。 ・教育活動全体を通じた道徳教育の指導の在り方と道徳科の指導方法について理解し、教材研究と学習指導案の作成を通じて、実際に道徳の授業を構想することができる。
授業計画	第1回 「道徳」とは何か 第2回 日本における道徳教育の歴史 第3回 西洋における道徳教育の歴史 第4回 学習指導要領について 第5回 子供の道徳性の発達 第6回 教育活動全体を通じた指導の在り方と指導計画 第7回 道徳科の指導方法(1) インカルケーション、価値の明確化 第8回 道徳科の指導方法(2) モラルジレンマ、自我関与が中心の学習 第9回 道徳科の指導方法(3) 問題解決的な学習、体験的な学習 第10回 道徳教育の課題(1) いじめ問題と道徳教育 第11回 道徳教育の課題(2) 情報モラル教育 第12回 教材研究と授業設計 第13回 道徳科の学習評価の在り方 第14回 学習指導案の作成 第15回 模擬授業 定期試験
テキスト	文部科学省『中学校学習指導要領』(平成29年3月) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』(平成29年7月)
参考文献	渡邊満・山口圭介・山口意友(編)『新教科「道徳」の理論と実践』玉川大学出版部、2017年。
評価方法	受講態度(10%)、学習指導案の提出(30%)、定期試験(60%)などに基づいて総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法						
担当教員	時津啓、松尾奈美						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021155
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語・英語)一種免許状≪教職に関する科目≫ ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法 ○高等学校教諭(国語・英語)一種免許状≪教職に関する科目≫ ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法						

授業の概要	<p>この授業では、中等教育における総合的な学習の時間と特別活動について講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の目的と意義について歴史的経緯を含めて概説し、これを計画、実施していく上で必要なカリキュラム上の留意点、及び指導過程を構想と実施のために必要な知識、技能や留意点について講義する。 ・特別活動の目的や意義について概説し、これを計画、実施していく上で必要なカリキュラム上の留意点、及び指導過程を構想と実施のために必要な知識、技能や留意点について講義する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の目的と意義を理解し、その授業を計画を立案、実施、評価できる力を養う。 ・特別活動の目的と意義を理解し、その授業を計画、実施、評価する力を養う。
授業計画	<p>第1回 総合的な学習の時間の意義と目的－歴史的検討を踏まえて－(松尾)</p> <p>第2回 総合的な学習の時間の目標と内容、獲得が期待される資質・能力(松尾)</p> <p>第3回 総合的な学習の時間の指導計画－他の領域、各教科との関連を踏まえて－(松尾)</p> <p>第4回 総合的な学習の時間の指導過程(1)－主題や教材をどう構想するか－(松尾)</p> <p>第5回 総合的な学習の時間の指導過程(2)－主体的、対話的で深い学びを目指して－(松尾)</p> <p>第6回 総合的な学習の時間の教育評価(松尾)</p> <p>第7回 特別活動の意義と目的、目標と内容(時津)</p> <p>第8回 学校のカリキュラムにおける特別活動の位置(時津)</p> <p>第9回 中等教育における学級活動、ホームルーム活動とその指導過程(時津)</p> <p>第10回 生徒会活動、クラブ活動の目標と計画、及びその指導過程(時津)</p> <p>第11回 学校行事の目標と計画、及びその指導過程(時津)</p> <p>第12回 学校行事計画の実際－入学式・卒業式(国旗・国歌の取扱を含む)を事例に－(時津)</p> <p>第13回 特別活動における学習評価、教育評価および指導の改善(時津)</p> <p>第14回 特別活動の生活指導・ガイダンス機能について－集団活動を通じた自治能力の形成－(時津)</p> <p>第15回 特別活動の実施体制と－学校内外の関係者との連携と協力(時津)</p> <p>定期試験</p>
テキスト	山田浩之編(2014)『特別活動論』協同出版
参考文献	文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別活動編」 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」 文部科学省「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」
評価方法	定期試験 70点、課題・演習レポート 30点
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	教育方法学						
担当教員	時津啓、山根俊喜、深見俊崇						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021160
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語・英語)一種免許状≪教職に関する科目≫ ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 ○高等学校教諭(国語・英語)一種免許状≪教職に関する科目≫ ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						

授業の概要	教授・学習論の歴史と基礎理論、及びコンピテンシー・ベースのカリキュラム・授業開発とアクティブラーニングといった今日的課題の意義を明らかにした上で、教育方法学の基本的課題である、教育目標論、教材・教具論(ICTなど教授メディアの活用、情報モラルを含む生徒の情報活用能力育成に資する指導法を含む)、学習形態論と指導過程論、教育評価論について講義し、学習指導案の作成能力とこれを実施する上で留意すべきことに関する理解を形成する。
授業の 到達目標	・これからの時代を生きる生徒達に必要な学力(資質・能力=コンピテンシー)を形成する為に必要な、教育の方法・技術、教授メディアの活用に関する基礎的な知識を身につけ、広い意味での「授業」を構想し実施するための基礎的な能力を獲得する。 ・教育におけるICTの活用方法を理解し、情報モラルを含む生徒の情報活用能力育成に資する指導法を理解する。
授業計画	第1回 教授・学習の原理と構造1ーレイネス、動機付け、直感の原理など(担当:深見) 第2回 教授・学習の原理と構造2ー自発性の原理、興味の原理、個性化の原理など(担当:深見) 第3回 教授・学習の形態と様式(担当:深見) 第4回 情報機器の活用とマルチメディア教育(担当:深見) 第5回 情報機器の活用とコンピュータを利用した学習(担当:深見) 第6回 情報機器の活用と教師の働きかけーメディア教育における教材利用(担当:時津) 第7回 生徒による主体的メディア利用ーイギリスの教育実践の分析(担当:時津) 第8回 生徒によるメディア(SNS等)利用と情報モラルの育成ー中学校の授業を中心に(担当:時津) 第9回 コンピテンシー(資質・能力)ベースの授業づくり:授業の逆引き設計と学習指導案(担当:山根) 第10回 教育目標論(1):内容的側面からー(担当:山根) 第11回 教育目標論(2):能力(行動)的側面からー(担当:山根) 第12回 教育評価論(1):評価基準と目標準拠評価ー(担当:山根) 第13回 教育評価論(2):形成的評価と授業改善ー(担当:山根) 第14回 教材・教具(教授メディア)論:教材・教具の意義と役割(担当:山根) 第15回 まとめー授業における教師の役割(担当:山根) 定期試験
テキスト	関連するレジュメと資料を配付する
参考文献	田中耕治他『新しい時代の教育方法』有斐閣, 2012 田中耕治編『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房, 2007 佐藤学『教育方法学』岩波書店, 1996 稲垣忠・鈴木克明『授業設計マニュアル Ver. 2』北大路書房, 2015 R. M. ガニエ他『インストラクショナルデザインの原理』北大路書房, 2007 ウィギンズ&マクタイ、西岡加名恵『理解をもたらすカリキュラム設計:逆引き設計の理論と方法』日本標準, 2012 文部科学省『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』(平
評価方法	期末試験60%とレポート40%

自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	生徒・進路指導の理論と方法						
担当教員	山田洋平						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021170
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語・英語)一種免許状≪教職に関する科目≫ ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 ○高等学校教諭(国語・英語)一種免許状≪教職に関する科目≫ ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						

授業の概要	現代の教育における生徒・進路指導に関し広く解説を行う。生徒・進路指導に関連する基礎的な理論から実際に教育現場で起きている問題まで、多様な視点で教育及び生徒・進路指導を捉え、理解を深めることを目的とする。また、実例を多く示し、グループでのプレゼンテーションやロールプレイ等の実践的な学びも取り入れる。
授業の 到達目標	1. 生徒・進路指導に関する基礎的な理論、生徒・進路指導に関わる教育の諸問題について、その内容や背景、原因、検討すべき課題を指摘できる。 2. 生徒・進路指導に関わる教育の諸問題について、心理学的な観点を含む複数の観点に基づき自らの意見を述べるができる。 3. 生徒・進路指導に関わる教育の諸問題について関心を持ち、生徒・進路指導に関連して新しく生じる問題を積極的に知ろうとする態度を持つ。
授業計画	第1回 生徒指導の基本的な考え方 第2回 一次支援、二次支援、三次支援とは 第3回 特別支援教育と生徒指導の必要性 第4回 いじめの実態と対応 第5回 不登校の実態と対応 第6回 子どもたちのネット問題と対応 第7回 ロールプレイで学ぶ生徒指導と解説 第8回 生徒指導の今後のあり方の検討 第9回 進路指導の基本的な考え方 第10回 進路指導の基礎理論 第11回 個人理解の意義と方法 第12回 進路情報の意義と活用方法 第13回 啓発的経験の意義と実践方法 第14回 キャリア・カウンセリングの意義と実践方法 第15回 進路指導の今後のあり方の検討 定期試験
テキスト	生徒指導提要(文部科学省)
参考文献	指定しない。適宜紹介する。
評価方法	レポート(50%)、提出物(50%)
自己学習に 関する指針	・配布資料および記載された参考文献を読み、復習に役立てる。
履修上の 指導・留意点	・授業中のグループワークには積極的に参加すること。

授業科目	教育相談						
担当教員	川中淳子						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021180
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭(国語・英語)一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 〔教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法〕 <p>○高等学校教諭(国語・英語)一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 〔教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法〕 						

授業の概要	<p>本授業は教員による概説と、それに関する論文講読や実践的学習により構成される。主なテーマは学校現場における個別の支援が必要な状態を知ることと、それらへの対応である。実践力をつけるために、カウンセリングのロールプレイをはじめとした様々な実践演習や、架空事例の検討会を予定している。</p>
授業の到達目標	<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒達の心の諸問題に対する配慮や関わり、及び、保護者への対応のありかたについて、各自が主体的に考えられるようになる ・子ども達が抱える様々な困難を、具体的に説明できる ・カウンセリングの実際を知り、基本技術を身につける <p>[テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、不登校、いじめ、発達障がい、虐待、生きづらさなど、児童生徒への個別の支援が必要な状態を知る。次に、それらへの対応としてカウンセリングをはじめとした生徒達への様々な支援、保護者への対応、他機関との連携を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス(本講義の目的と概要説明。全受講生の自己紹介を含む)</p> <p>第2回 学校体験の振り返りから心の諸問題を考える</p> <p>第3回 子どもを取り巻く家庭・学校・地域の諸問題</p> <p>第4回 子どものこころの諸問題の理解(1) 不登校、いじめ</p> <p>第5回 子どものこころの諸問題の理解(2) 発達障がい</p> <p>第6回 子どものこころの諸問題の理解(3) 虐待、生きづらさ</p> <p>第7回 傾聴の演習(1) 傾聴の姿勢</p> <p>第8回 傾聴の演習(2) 非言語的コミュニケーションと言語的コミュニケーション(実践を含む)</p> <p>第9回 カウンセリングの基礎知識</p> <p>第10回 カウンセリングの技法(ロールプレイを含む)</p> <p>第11回 保護者への対応</p> <p>第12回 各受講生自身の教育観の振り返り -コンセンサス実習を通して-</p> <p>第13回 スクールカウンセリング事例(架空事例の検討)</p> <p>第14回 様々な支援と他機関との連携</p> <p>第15回 まとめ これからの時代に求められる教育相談</p> <p>定期試験</p>
テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・「光とともに」全15巻、別巻 2001 戸部けいこ 秋田書店(発達障害) ・「凍りついた瞳」(1996)、「新 凍りついた瞳」(1998)、「続 凍りついた瞳」(2003) いずれも集英社 ささや ななえ(著)、椎名 篤子(著)(児童虐待) ・映画「レインマン」1988 アメリカ(発達障害) ・映画「蠅の王」1963 イギリス(子どもたちの対人関係) <p>他にも随時紹介します。</p>

評価方法	<ul style="list-style-type: none">・ 出席が70%以下の者には評価を与えない・ 毎回の授業での取り組み50%、期末試験50%
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none">・ 上記の参考文献や授業中に紹介する参考文献を、積極的に読むことが望ましい。
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none">・ 実践を多く取り入れるので、授業は受け身的な姿勢ではなく主体的に取り組むこと。

授業科目	教育実習事前事後指導						
担当教員	小柳正司、古賀洋一						
科目分類	資格・免許	授業時間	15	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	自由	単位数	1	授業コード	M3021190
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語・英語)一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育実習 ○高等学校教諭(国語・英語)一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育実習						

授業の概要	事前指導では、教育実習の意義と心得、教科担当教員としての心得を学ぶとともに、教材研究と指導案作成の方法を最終確認する。事後指導では、実習で得られた知見をまとめた報告書を作成し、口頭発表を行う。このことを通して、教育実習の学びを整理すると同時に、教員としての自己の課題を認識していく。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の意義と心得、教科担当教員としての心得を理解することができる。 ・教育実習における自己の学びを整理するとともに、教員としての自己の課題を認識することができる。
授業計画	(事前指導) 第1回 教育実習の意義 第2回 教育実習の心得(教職員や生徒への接し方やマナー、実習中の生活全般についても含む) 第3回 各教科担当教員としての心得 第4回 教材研究の方法 第5回 学習指導案作成方法の最終確認 (事後指導) 第6回 教育実習体験の整理 第7回 教育実習内容の整理と自己評価(教職実践演習に向けた課題の明確化) 第8回 教育実習のまとめ
テキスト	「履修カルテ」「学習ポートフォリオ」「教職課程ハンドブック」「教育実習の手引き」
参考文献	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート(50%)：教育実習の意義と心得、教科担当教員としての心得を理解できているか否かを評価する。 ・報告書(50%)：教育実習の学びを整理すると同時に、教員としての自己の課題を認識しているか否かを評価する。
自己学習に関する指針	・「自分にとって実習をどのような場にしたいか」「どのような教員になりたいのか」を授業外でも問い続けてください。
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・教員免許を取得しようと考えている人は必修です。 ・本科目を履修した成果を「履修カルテ」に記入し、授業で用いた資料等を「学習ポートフォリオ」としておくこと。

授業科目	教育実習 I						
担当教員	小柳正司、古賀洋一						
科目分類	資格・免許	授業時間	80	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	実習	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021200
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語・英語)一種免許状《教職に関する科目》 ・教育実習 ○高等学校教諭(国語・英語)一種免許状《教職に関する科目》 ・教育実習						

授業の概要	<p>教育実習は、教育実践の現場に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。教育実習 I では、生徒との関わりや指導教員の振る舞いの観察を通して、教職の服務や意義、心得を再確認する。また、指導教員から指導技術を学び、徹底した学習者研究と教材研究を通して授業を構想・実践する力を養う。</p>
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職の服務や意義、心得を理解することができる。 ・生徒との関わりを通して、その実態を把握することができる。 ・指導教員の授業を観察・記録し、生徒の実態に応じた指導技術を学ぶことができる。 ・学習指導要領や生徒の実態、学んだ指導技術を踏まえて指導案を作成し、授業を実践することができる。
授業計画	<p>中学校免許の志望者は中学校にて、高校免許の志望者は高校にて8時間×5日間×2週間の実習を行う。以上を通して、特に次の内容について体験的、総合的に学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職の服務、心得、意義 ・教師としての生徒との関わり方 ・授業実践の観察と記録の仕方 ・生徒の実態に応じた授業作りのあり方と指導技術 ・学習指導要領、生徒の実態、指導技術を踏まえた学習指導案の作成の仕方 ・学習指導案にもとづく授業の実践力 ・生徒との対話を通じた即興的な授業の展開力
テキスト	<p>「履修カルテ」「学習ポートフォリオ」「教職課程ハンドブック」「教育実習の手引き」 ・教育実習先で使用する教科書</p>
参考文献	特になし
評価方法	<p>実習中の出勤状況や勤務態度、実習に対する意欲などを考慮し、実習録などの資料及び実習校からの成績評価と大学の授業を担当する専任教員の成績評価を総合して評価する。</p>
自己学習に 関する指針	<p>教育実習が良いものとなるかどうかは、皆さんの意欲と事前準備にかかっています。時間をかけて、授業作りに取り組んでください。</p>
履修上の 指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・教員免許を取得しようと考えている人は必修です。 ・実習の成果は「履修カルテ」にまとめ、作成した指導案等は「学習ポートフォリオ」にとじておくこと。 ・実習に行く条件は次の5点です。①三次次までに特定の科目を一定数取得していること、②実習の前年度に松江市立湖南中学校と松江商業高校の授業観察に参加していること、③「教育実習事前事後指導」を履修していること、④学期毎に「履修カルテ」「学習ポートフォリオ」を提出していること、⑤卒業後教員として働くことを志望していること。

授業科目	教育実習Ⅱ						
担当教員	小柳正司、古賀洋一						
科目分類	資格・免許	授業時間	80	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	実習	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021210
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語・英語)一種免許状《教職に関する科目》 ・教育実習						

授業の概要	<p>教育実習は、教育実践の現場に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。教育実習Ⅱでは、教育実習Ⅰで学んだ生徒の実態把握力、授業構想・展開力を高めると同時に、教育実習校の学校経営方針や特色ある教育活動について理解を深め、学級担任としての学級経営や生徒指導を実践できるようになることを目的とする。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態把握力や授業構想・展開力を高めることができる。 ・実習校の学校経営方針や特色ある教育活動について理解することができる。 ・学校全体で教育活動にあたるための、同僚教師との協同性を高めることができる。 ・学級担任としての学級経営や生徒指導のあり方を理解し、実践することができる。
授業計画	<p>中学校免許の志望者は中学校で、高校免許の志望者は高校で、双方の免許を志望する者は「教育実習Ⅰ」とは異なる校種で8時間×5日間×2週間の実習を行う。「教育実習Ⅰ」の内容に加えて、特に次の内容について体験的、総合的に学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習校の学校経営方針や特色ある教育活動のあり方 ・学校全体で教育活動にあたるための同僚教師との協同性 ・学級担任としての学級経営のあり方 ・学級担任としての生徒指導のあり方
テキスト	<p>「履修カルテ」「学習ポートフォリオ」「教職課程ハンドブック」「教育実習の手引き」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習先で使用する教科書
参考文献	
評価方法	<p>実習中の出勤状況や勤務態度、実習に対する意欲などを考慮し、実習録などの資料及び実習校からの成績評価と大学の授業を担当する専任教員の成績評価を総合して評価する。</p>
自己学習に関する指針	<p>教育実習が良いものとなるかどうかは、皆さんの意欲と事前準備にかかっています。時間をかけて授業作りに取り組んでください。</p>
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の教員免許を取得しようと考えている人は必修です。 ・実習の成果は「履修カルテ」にまとめ、作成した指導案等は「学習ポートフォリオ」としておくこと。 ・実習に行く条件は次の5点です。①三年次までに特定の科目を一定数取得していること、②実習の前年度に松江市立湖南中学校と松江商業高校の授業観察に参加していること、③「教育実習事前事後指導」「教育実習Ⅰ」を履修していること、④学期毎に「履修カルテ」「学習ポートフォリオ」を提出していること、⑤卒業後教員として働くことを志望していること。

授業科目	教職実践演習(中・高)						
担当教員	小柳正司、古賀洋一						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	4	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021220
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語・英語)一種免許状《教職に関する科目》 ・教育実習 ○高等学校教諭(国語・英語)一種免許状《教職に関する科目》 ・教育実習						

授業の概要	<p>本科目の目的は次の二点である。一つ目は、各々が教育実習での学びを振り返り、課題を抽出し、改善の方向性を探るなかで、教師の専門的力量を補完することである。いま一つは、これから教師として生きていくうえでの「理想の教師像」を確立し、残された学生生活に向けた思いを新たにすることである。授業は各々の学びの振り返りを中心とした個人作業と、討論やブレインストーミング、模擬授業を中心とした協同作業とを織り交ぜながら進めていく。このことによって、教師として生きていくうえで欠かせない協同性、受容性をも育んでいく。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒との関わり」「学級経営」「同僚教師との関わり」の観点から教育実習での学びを振り返り、課題を抽出するとともに、改善の方向性を明確にすることができる。 ・実習での授業実践の課題を発見し、指導案を修正するとともに、授業を実践することができる。 ・これまでの学びの内容を整理し、「理想の教師像」を確立することができる。
授業計画	<p>第1回 教育実習の課題の振り返り 第2回 「生徒との関わり」に関する体験の共有 第3回 「生徒との関わり」に関する改善策の検討 第4回 「学級経営」に関する体験の共有 第5回 「学級経営」に関する改善策の検討 第6回 「同僚教師との関わり」に関する体験の共有と改善策の検討 第7回 自身の授業実践の振り返りと課題の発見 第8回 学習者の実態の捉え直し 第9回 教材の再分析 第10回 実践事例の収集・共有 第11回 指導案の修正 第12回 修正指導案にもとづく模擬授業①—国語— 第13回 修正指導案にもとづく模擬授業②—英語— 第14回 今後の課題と改善の方向性の整理 第15回 「理想の教師像」の確立</p>
テキスト	「履修カルテ」「学習ポートフォリオ」「教職課程ハンドブック」「教育実習の手引き」、実習で収集・作成した諸資料
参考文献	特になし
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート、修正指導案(50%)：教育実習で生じた課題に応じて改善の方向性を明確化したり、指導案を修正したりできているかどうかを評価する。 ・レポート(50%)：自身のこれまでの学びと改善の方向性を整理し、理想の教師像を明確に持つことができているかどうかを評価する。
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の課題をどうすれば改善できるのか、自分が理想とする教師とは何なのかを授業外でも問い続けてください。 ・教育書を自主的に読んでください。さらに考えが深まります。
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・教員免許を取得しようと考えている人は必修です。 ・学習の成果は「履修カルテ」にまとめ、作成した修正指導案は「学習ポートフォリオ」にとじておくこと。 ・「教育実習事前事後指導」「教育実習」を履修していることが履修の条件です。

授業科目	図書館サービス概論						
担当教員	大野浩 ほか						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021230
免許資格 関連事項	○司書資格						

授業の概要	日本の公共図書館を中心に、図書館サービスについて、歴史的経緯をたどりながら概説する。関連の深い複写サービスにおける著作権や地域資料の重要性についても講じる。また、鳥根県立図書館を会場に実習を行う。
授業の 到達目標	図書館サービスの意義、特質、方法、種類等について、理論と実際を理解すること。 ・ 図書館サービスにはどのようなものがあるか理解する。 ・ 複写サービスにおける著作権について理解する。 ・ 地域資料の種類や重要性について理解する。 ・ 図書館協力について理解する。
授業計画	第1回 講義 図書館サービスの意義 第2回 講義 図書館サービスの実際 第3回 講義 資料提供サービス1 第4回 講義 資料提供サービス2 第5回 講義 課題解決支援サービス 第6回 講義 利用対象者別サービス 第7回 講義 図書館施設、集会・文化活動と広報 第8回 講義 図書館サービスと著作権1 第9回 講義 図書館サービスと著作権2 第10回 講義 地域資料1 第11回 講義 地域資料2 第12回 講義 図書館協力 第13回 講義 まとめ、課題と展望 第14～15回 実習(約180分) 会場：鳥根県立図書館(グループ作業)
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
参考文献	特になし
評価方法	レポートによる。ただし、講義3回以上欠席、実習欠席の者は評価しない。
自己学習に 関する指針	図書館はどれも同じようであり、それぞれ違いがあります。まずは、いくつも図書館へ行ってみましょう。
履修上の 指導・留意点	実習は授業時間外に行う。(補講期間、または土日等を予定)

授業科目	図書館制度・経営論						
担当教員	小南理恵						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021240
免許資格 関連事項	○司書資格						

授業の概要	図書館の組織運営と経営の基本的知識を習得することを目標とする。図書館制度を支える各種法律(憲法、地方自治法、地方教育行政法、教育基本法、社会教育法、図書館法等)、関連する領域の法律(著作権法、個人情報保護法等)、国及び地方公共団体の図書館政策について解説するとともに、図書館経営に関わるヒト・モノ・カネの問題について、職員の人事・配置、施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の運営、経営の基本的知識を修得する。 ・「図書館経営とは何か」について自分の言葉で説明できるようになる。 ・図書館を取り巻く法制度について理解する。
授業計画	<p>第1回 公共図書館の役割と図書館経営</p> <p>第2回 図書館業務・サービスの評価</p> <p>第3回 図書館の管理形態の多様化</p> <p>第4回 図書館のモノの要素(資料、施設・設備計画)</p> <p>第5回 図書館のヒトの要素(組織・職員、館長の役割)</p> <p>第6回 図書館のカネの要素(サービス計画と予算の確保)</p> <p>第7回 図書館に関する法制度(1): 公立図書館と関連法①(地方自治法と図書館)</p> <p>第8回 図書館に関する法制度(2): 公立図書館と関連法②(地方教育行政法と図書館)</p> <p>第9回 図書館に関する法制度(3): 学校図書館と関連法①(教育基本法と学校教育法)</p> <p>第10回 図書館に関する法制度(4): 学校図書館と関連法②(学校図書館法)</p> <p>第11回 図書館に関する法制度(5): 大学図書館と関連法(大学設置基準と図書館)</p> <p>第12回 図書館サービス関連法規(1): 個人情報保護法</p> <p>第13回 図書館サービス関連法規(2): 著作権法①(著作権法概説)</p> <p>第14回 図書館サービス関連法規(3): 著作権法②(著作権法と図書館)</p> <p>第15回 まとめと展望</p>
テキスト	なし
参考文献	授業時に随時紹介する。
評価方法	授業への参加(授業コメント、授業内課題)50%、レポート50%で評価します。
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none"> ・居住している市町村および隣接する自治体の図書館のホームページや行政広報(『〇〇市だより』等)を閲覧すること ・それぞれの図書館の活動や住民への情報サービスについて常に関心を払うこと
履修上の指導・留意点	司書資格を取得するために必要な科目です。

授業科目	情報サービス特論						
担当教員	木内公一郎、小南理恵						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021250
免許資格 関連事項	○司書資格						

授業の概要	<p>図書館に関する各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深めることを目的とする。情報サービスに関わる様々な事柄の中から興味を持った研究主題を見つけ、見つけた研究主題について先行研究を調査し、自分なりの考察を加え、研究成果について ICT を用いたプレゼンテーションを行う。図書館に関する科目の基礎的な知識とともに、問題発見力、調査力、自分の考えを的確に他者に伝えるための表現力を養成する。研究主題により2クラスに分け、2名の教員により指導を行う。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報サービスに関わるさまざまな事柄から、興味を持った研究主題を見つける。 ・見つけた研究主題について、専攻研究を調査し、自分なりの考察を加えることができるようになる。 ・研究成果について、ICT を用いたプレゼンテーションができるようになる。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：本科目の進め方について、グループ分け 第2回 情報サービスの現状と課題 第3回 研究の計画（1）：研究主題の決定、先行研究の調査 第4回 研究の計画（2）：仮設の提示 第5回 着手報告 第6回 研究の実行（1）：調べる 第7回 研究の実行（2）：整理する 第8回 研究の実行（3）：まとめる 第9回 中間報告：点検評価 第10回 研究の実行（4）：改善する 第11回 研究の実行（5）：実行する 第12回 最終報告（1）：前半グループ 第13回 最終報告（2）：後半グループ 第14回 研究の評価：振り返る 第15回 情報サービスの課題と展望</p>
テキスト	なし
参考文献	授業で随時紹介する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・研究報告書（50%）、プレゼンテーション（50%）を課す。 ・上記に加え、授業への参加（質問、感想等）については適宜加点する。
自己学習に関する指針	<p>図書館が展開する情報サービスについて日頃から興味を持っておくことが必要です。冊子体資料のみならず、インターネットなども活用して、日常的な情報収集を心がけましょう。</p>
履修上の指導・留意点	<p>司書資格を取得するために必要な科目です。 本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、大学図書館での勤務経験を活かして司書資格取得に関する授業を展開する。</p>

授業科目	図書館実習						
担当教員	木内公一郎、小南理恵						
科目分類	資格・免許	授業時間	60	配当年次	3	配当期	通年
授業形態	実習	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021260
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>図書館に関する科目で得た知識・技術をもとにして、事前・事後学習の指導を受けつつ公立図書館業務を経験することを目的とする。実習先では、図書館における直接サービス（閲覧・貸出、レファレンス、児童サービス等）および間接サービス（資料整理・管理等）を総合的に実習する。受講者は、担当教員の指導の下、実習先の選定、依頼、実習、報告書の作成、成果発表を行う。司書資格取得見込みの者の中から、希望者のみが履修する。本科目は通年科目であり、事前・事後学習 20 時間（4～7 月、10・11 月）、実習 40 時間（8・9 月）で実施する。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館における情報の収集、処理、提供に関する業務の実際を理解する。 ・上記図書館業務の実務能力を修得する。 ・現場における実習活動を通じて職業意識を高めるための体験をし、図書館専門職のあり方を考える。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：実習の概要と予定 第2回 事前調査（1）：実習希望図書館の見学 第3回 事前調査（2）：実習希望図書館の調査研究① 第4回 事前調査（3）：実習希望図書館の調査研究② 第5回 調査報告 第6回 事前調査（4）：図書館サービスに関する文献調査 第7回 事前調査（5）：図書館サービスに関する文献紹介① 第8回 事前調査（6）：図書館サービスに関する文献紹介② 第9回 実習先の選定と決定（1）実習先の選定 第10回 実習先の選定と決定（2）実習先との打ち合わせ 第11回 実習先の選定と決定（3）実習計画書 第12回 直前オリエンテーション 第13回 受入図書館での実習（40 時間） 第14回 成果報告 第15回 事後指導、まとめ</p>
テキスト	なし
参考文献	授業内で随時紹介する。
評価方法	公立図書館において、原則として2週間程度（40 時間）の実習を行い、かつ、大学での事前・事後の授業に出席し、所定の要件を満たした者に単位が与えられる。受講生から提出された事前調査票、実習日誌、実習報告書、および実習先から提出された実習評価により評価する。評価の内訳は、事前・事後学習課題（30%）、実習評価報告書（70%）となる。
自己学習に関する指針	実習先の図書館だけでなく、その図書館が所在する地域について知識を持つことが必要です。基本的な情報は自治体の広報誌やWebサイトを参照して学ぶようにしてください。
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・履修者の選考を行う。履修希望者は、前年度1月に実施（予定）の事前説明会に必ず出席すること。 ・実習先は、原則として島根県内の公立図書館を予定するが、具体的な実習先については実習予定者の希望や諸条件を考慮して決定する。なお、受講生が実習受入先一覧にない図書館（例えば、自身の出身道府県の図書館）での実習を希望する場合、担当教員の指導のもとに、受講生本人が直接実習希望先と交渉し内諾を得ることが必要となる。 ・本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、大学図書館での勤務経験を活かしてより具体的な授業を展開

授業科目	情報資源概論						
担当教員	小南理恵						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021270
免許資格 関連事項	○司書資格						

授業の概要	図書館が扱う各種情報資源の歴史、出版文化と制度、図書館コレクションの構築、その他図書館業務に必要な情報資源の知識の基礎を理解することを目標とする。有形出版物としての印刷資料・非印刷資料、及び無形出版物としてのネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、コレクション構築（選択、収集、整理、保存、評価）、コレクション構築と図書館の自由、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を解説する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館におけるさまざまな情報資源の特徴を理解する。 ・図書館におけるコレクション構築のプロセスを理解する。 ・上記をふまえて、図書館における各種の条件（利用者ニーズ、地域課題、収集方針等）から適切な情報資源を選択できるようになる。
授業計画	<p>第1回 記録情報メディアの発達史</p> <p>第2回 印刷資料、非印刷資料の類型と特質</p> <p>第3回 図書館情報資源の種類と特質①（図書）</p> <p>第4回 図書館情報資源の種類と特質②（逐次刊行物）</p> <p>第5回 図書館情報資源の種類と特質③（ファイル資料、マイクロ資料）</p> <p>第6回 図書館情報資源の種類と特質④（視聴覚資料）</p> <p>第7回 図書館情報資源の種類と特質⑤（視覚障害者用資料）</p> <p>第8回 図書館情報資源の種類と特質⑥（電子資料、ネットワーク情報資源）</p> <p>第9回 図書館情報資源の種類と特質⑦（地域資料、政府刊行物等）</p> <p>第10回 コレクション形成の理論</p> <p>第11回 コレクション形成のプロセス①（計画・選択）</p> <p>第12回 コレクション形成のプロセス②（収集・整理・保存）</p> <p>第13回 コレクション形成のプロセス③（評価・再編）</p> <p>第14回 情報資源の生産と流通</p> <p>第15回 まとめと展望</p>
テキスト	岸田和明 編著『改訂 図書館情報資源概論』樹村房、2020年 2,000円+税 ※出版状況等により、改訂された場合には最新の版を用いる可能性がある。
参考文献	『図書館情報学用語辞典 第5版』丸善、2020年 3,800円+税
評価方法	授業への参加（授業コメント、授業内課題など）50%、レポート50%で評価します。
自己学習に関する指針	日常的に図書館を訪れて、どのような情報資源が図書館にあるのかをよく観察してください。
履修上の指導・留意点	司書資格を取得するために必要な科目です。

授業科目	情報資源組織論						
担当教員	小南 理恵						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M3021280
免許資格 関連事項	○司書資格						

授業の概要	図書館における情報資源組織の意義および情報資源組織に用いる各種ツールの役割について理解することを目標とする。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題組織法（分類法、件名法）、メタデータ、各種 MARC、書誌ユーティリティ、書誌データの活用法等を解説する。
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報資源組織の役割を理解する。 ・情報資源組織に用いる各種ツールの役割について理解する。 ・「情報資源組織はなぜ必要か」について自分の言葉で説明できるようになる。
授業計画	<p>第1回 情報資源組織の意義と理論</p> <p>第2回 書誌コントロールと標準化</p> <p>第3回 書誌記述法、主要な書誌記述規則</p> <p>第4回 日本目録規則 (NCR) ①: NCR 概説</p> <p>第5回 日本目録規則 (NCR) ②: NCR の運用</p> <p>第6回 主題分析の意義と考え方、主題分析と索引法 (主要な統制語彙)</p> <p>第7回 基本件名表目標 (BSH)</p> <p>第8回 主題分析と分類法、主要な分類法</p> <p>第9回 日本十進分類法 (NDC) ①: NDC 概説</p> <p>第10回 日本十進分類法 (NDC) ②: NDC の運用</p> <p>第11回 書誌情報の作成と流通 (MARC、書誌ユーティリティ)</p> <p>第12回 書誌情報の提供 (OPAC の管理と運用)</p> <p>第13回 ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ</p> <p>第14回 多様な情報資源の組織化 (地域資料、行政資料等)</p> <p>第15回 非コントロール情報と人々の情報行動および図書館の対応</p>
テキスト	<p>榎本裕希子、石井大輔、名城邦孝『情報資源組織論 第2版』学文社、2019年 1,900円+税</p> <p>その他、授業時に指示する。</p> <p>※出版状況等により、改訂された場合には最新の版を用いる可能性がある。</p>
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『日本目録規則 2018年版』日本図書館協会、2018年 ・『日本目録規則 1987年版改訂3版』日本図書館協会、2006年 ・『日本十進分類法 (新訂9版)』日本図書館協会、1995年 ・『日本十進分類法 (新訂10版)』、2014年 ・『基本件名標目表 (第4版)』日本図書館協会、1999年 <p>以上は、図書館には必ず常備されているはずなので、適宜実際に手にとって参照すること。</p>
評価方法	授業への参加 (授業コメント、授業内課題など) 40%、レポート 60%で評価します。
自己学習に 関する指針	日頃、図書館を訪れて情報資源の組織化がどのように行われているのかに注目すること。
履修上の 指導・留意点	司書資格を取得するために必要な科目です。本科目は、演習科目 (情報資源組織演習 I・II) に対する講義科目となります。

授業科目	情報資源組織演習 I						
担当教員	原田由紀子						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	自由	単位数	1	授業コード	M3021290
免許資格 関連事項	○司書資格						

授業の概要	<p>情報資源の組織化は、コレクションすることから利用者へ提供するまでの業務のもととなる。図書館で提供する情報資源は、印刷資料、非印刷資料、電子資料、ネットワーク情報源などがある。これらがどのように体系化されているかを知ることで、利用者を意識した配架や情報提供につながる。</p> <p>本演習では、NDC10版を使った主題分析と分類作業によって理論と技術を具体的に演習する。また、科学絵本を用いた主題分析も試みる。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報資源の主題を読み取ることができること 2. 現場における組織化の持つ意義を考えること 3. 辞書を使いこなすようにNDC10版を引くことができること
授業計画	<p>第1回 講義 NDC10版の使い方：本表と相関索引</p> <p>第2回 講義・演習 主題分析について：書誌分類と書架分類</p> <p>第3回 講義・演習 各類の概要と構成：分類記号の付与</p> <p>第4回 講義・演習 主題分析と統制語彙の適用</p> <p>第5回 講義・演習 主題分析演習：科学絵本を使って</p> <p>第6回 講義・演習 補助表と分類規程</p> <p>第7回 講義・演習 分類作業の実際 ①NDC 1類</p> <p>第8回 講義・演習 分類作業の実際 ②NDC 2類</p> <p>第9回 講義・演習 分類作業の実際 ③NDC 7類</p> <p>第10回 講義・演習 分類作業の実際 ④NDC 8・9類</p> <p>第11回 講義・演習 分類作業の実際 ⑤NDC 3類-1</p> <p>第12回 講義・演習 分類作業の実際 ⑤NDC 3類-2</p> <p>第13回 講義・演習 分類作業の実際 ⑥NDC 4・5類</p> <p>第14回 講義・演習 分類作業の実際 ⑦NDC 6・0類</p> <p>第15回 講義 メタデータについて</p>
テキスト	<p>もり きよし原編『日本十進分類法 新訂10版』日本図書館協会, 2014年, 6500円</p> <p>宮沢厚雄著『分類法キイノート第3版補訂』樹村房, 2020年, 1500円</p>
参考文献	<p>宮沢厚雄著『分類法キイノート』樹村房, 2015年, 1500円</p> <p>その他必要に応じてプリントなどを配付</p>
評価方法	<p>筆記試験 (60%), 演習課題等 (30%), 受講態度 (10%)</p> <p>演習課題については、科学絵本を用いた主題分析で、自分なりの根拠を示した分析ができたか、また分類記号を付与をする手順が理解できているか、を観点に数値化する。</p> <p>受講態度とは、課題提出状況およびCan-doシート(習得度にかかる自己評価表に記した疑問事項に対する解決に取り組んだかが観点)を元に数値化する。</p>
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中にある様々な「分類」について関心を持ち、図書館や書店、小売店舗等のレイアウトに目を向けること。 ・授業で扱った情報資源や初めて知った言葉については、複数館のOPACで比較したり、辞書で引いたり等、積極的に調べること。
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは授業開始時に箱から出して机の上に準備すること。 ・テキストを忘れた場合は欠席とする。 ・無記名の提出物については未提出とみなす。 ・欠席は原則事前連絡とする。 ・なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育委員会(公立図書館、学校図書館支援)勤務の経験を生かして、司書資格取得に関する授業を展開する。

授業科目	情報資源組織演習Ⅱ						
担当教員	北井由香						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	自由	単位数	1	授業コード	M3021300
免許資格 関連事項	○司書資格						

授業の概要	講義科目である「情報資源組織論」を踏まえ、情報資源の書誌的情報を記録する記述目録法について演習を行う。
授業の到達目標	・目録の意義・構成を理解した上で、情報資源から記述に必要な情報源を探し、目録規則に沿って図書 の目録作成ができるようになる
授業計画	第1回 講義 情報資源組織化の意義と目的 第2回 演習 目録規則に基づく目録作成について 第3回 演習 書誌データの作成(タイトル、責任表示) 第4回 演習 書誌データの作成(版表示、出版・頒布) 第5回 演習 書誌データの作成(形態) 第6回 講義 書誌階層と書誌単位 第7回 演習 書誌データの作成(シリーズ) 第8回 演習 書誌データの作成(注記、標準番号・入手条件) 第9回 演習 書誌データの作成(標目) 第10回 講義 英米目録規則について 第11回 演習 書誌データの作成(タイトル、責任表示、版表示、出版・頒布) 第12回 演習 書誌データの作成(形態、シリーズ) 第13回 講義 コンピュータ目録について 第14回 演習 書誌データの作成 第15回 演習 まとめ
テキスト	プリントを配布する
参考文献	・『日本目録規則 1987年版改訂3版』日本図書館協会、2006年 ・『英米目録規則第2版 日本語版』日本図書館協会、1995年 ・榎本裕希子、石井大輔、名城邦孝『情報資源組織論』学文社、2012年 ・『情報資源組織演習 新訂版』(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ10) 日本図書館協会、2016年 ・『情報資源組織演習』(現代図書館情報学シリーズ10) 樹村房、2013年
評価方法	課題提出(20%)、各時間に行う小テスト(20%)、試験(60%)を総合して評価する。
自己学習に関する指針	日頃から図書館を利用する中で、情報資源の目録がどのように整理されているのかを確認して、自分なりに考察すると良いでしょう。授業で習った内容が図書館の現場でどのように活用されているのかに注目してください。
履修上の指導・留意点	演習科目は、毎回の課題をクリアして実践を積み重ねていくことが必要です。生じた疑問は放置せず、必ず次の授業までには解決するように心がけてください。

授業科目	学校図書館論						
担当教員	木内公一郎						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M1020020
免許資格 関連事項	○司書教諭免許状						

授業の概要	<p>教師が学校図書館活用教育を展開するために必要な知識・技能として、学校図書館の教育的意義や経営など全般的事項について理解することを目標とする。学校図書館の理念と教育的意義、学校図書館の発展と課題、教育行政と学校図書館、学校図書館の経営（人、施設、資料、予算、評価等）、司書教諭の役割と校内の協力体制と研修、学校図書館メディアの選択と管理、提供、学校図書館活動、図書館の相互協力とネットワーク等について解説する。</p>
授業の到達目標	<p>学校教育と学校図書館の関係、組織、サービス、人的資源などを広範囲にわたる学校図書館の課題を理解することができるようになる。(知識)</p> <p>学校教育における学校図書館のあるべき姿を理解し、司書教諭として学校図書館運営の中核を担う意識が醸成されるようになる。(態度)</p>
授業計画	<p>第1回 学校教育と学校図書館：学校図書館の目的と役割について説明する。</p> <p>第2回 学校図書館の歴史1：学校図書館の概念と機能形成のはじまりを説明する。</p> <p>第3回 学校図書館の歴史2：昭和前期から戦後の法制化までを説明する。</p> <p>第4回 教育行政と学校図書館経営：教育行政と学校図書館との関係について説明する。</p> <p>第5回 学校図書館職員と経営組織：司書教諭と学校司書の役割と組織について説明する。</p> <p>第6回 学校図書館メディア：メディアの類別と収集、組織化について説明する。</p> <p>第7回 学校図書館の設備と会計：学校図書館基準を基に設備と会計について説明する。</p> <p>第8回 学校図書館の教育活動：学校図書館が行うべき教育活動について説明する。</p> <p>第9回 学校図書館経営計画：経営計画の立案について説明する。</p> <p>第10回 学校図書館活動の実際1：学校図書館活動を行う際の留意点と意義を説明する。</p> <p>第11回 学校図書館活動の実際2：資料提供活動の目的と方法を説明する。</p> <p>第12回 学校図書館活動の実際3：情報提供活動と広報活動について説明する。</p> <p>第13回 学校図書館活動の実際4：行事・集会活動とネットワークについて説明する。</p> <p>第14回 学校図書館の評価と改善：評価の必要性和、評価の方法について説明する。</p> <p>第15回 まとめ：学校経営における司書教諭の役割と職責を説明する。</p>
テキスト	司書教諭・学校司書のための学校図書館必携 理論と実践 改訂新版（全国学校図書館協議会監修 悠光堂 2021）
参考文献	授業中に指示する。
評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）
自己学習に関する指針	・授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むこと。・予習としてテキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の指導・留意点	<p>質問はいつでも受け付けます。オフィスアワーを十分に活用してください。またリアクションペーパーを毎回配布しますので、質問や意見を積極的に書いてください。</p> <p>なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、出版社社員、大学事務職員、大学図書館、公共図書館の司書として勤務経験を生かし、現場での問題解決や利用者とのコミュニケーションなど実践的な知識、技能、理論に基づく教育を行う</p>

授業科目	学校図書館メディアの構成						
担当教員	木内公一郎						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M1020040
免許資格 関連事項	○司書教諭免許状						

授業の概要	<p>学校図書館活用教育を展開するために必要な知識・技能として、学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を目標とする。学校図書館メディアの種類と特性、学校図書館メディアの選択と構成、学校図書館メディアの組織化（分類の意義と機能、日本十進分類法等の解説、件名標目表の解説、目録の意義と機能、日本目録規則の解説、目録の機械化）など、多様な学習環境と学校図書館メディアの配置等について解説するとともに、主要単元毎にケースメソッドを導入し、知識の応用と実践能力の育成を図る。</p>
授業の到達目標	<p>学校図書館メディアの全体像を理解するとともに、メディアの収集から利用までの実務を理解することができるようになる。(知識) さらに学校図書館メディアに関する知識と技術が身につく、学校図書館の現場で実践できるようになる。(技能)</p>
授業計画	<p>第1回 学校図書館メディアの意義：学校教育におけるメディアのはたらきを解説する。 第2回 メディア構成の要点：メディアを構築していくプロセスについて解説する。 第3回 メディア構成の知識と技術：司書教諭に必要とされる役割と知識について解説する。 第4回 学校図書館メディアの種類：印刷、視聴覚、電子資料などの各メディアについて解説する。 第5回 印刷・視聴覚メディアの選択と収集：選書のための方法と情報源を解説し、ケースメソッドによる演習を行う。 第6回 電子メディア利用の環境整備：コンピュータシステム、ネットワーク環境について解説する。 第7回 コレクション形成の意義：学校図書館コレクションの意義と形成のあり方について解説する。 第8回 コレクション形成の実際：コレクション形成の実務とケースメソッドによる演習を行う。 第9回 コレクション評価の手法：評価の基準とその方法について解説する。 第10回 メディアへの物理的アクセス支援：印刷、ファイル資料、電子メディアの取り扱いについて学ぶ。 第11回 メディアへの知的アクセス支援：メディアへアクセスする方法としてコンピュータ目録を中心に解説する。 第12回 分類法を用いたメディアの組織化：主題組織法、特に日本十進分類法を中心に解説する。 第13回 目録法を用いたメディアの組織化：日本目録規則、メタデータについて解説する。 第14回 件名法を用いたメディアの組織化：基本件名標目法を中心に解説する。 第15回 学校図書館メディアの構成における課題：学校教育への貢献と司書教諭、学校司書の協働について解説し、まとめとしてケースメソッドによる演習を行う。</p>
テキスト	小田光宏『学校図書館メディアの構成』樹村房, 2016(司書教諭テキストシリーズ II 2)
参考文献	授業中に指示する。
評価方法	筆記試験(60%)、授業中の課題および演習(40%)
自己学習に関する指針	・授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むこと。・予習としてテキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の指導・留意点	<p>質問はいつでも受け付けます。オフィスアワーを十分に活用してください。またリアクションペーパーを毎回配布しますので、質問や意見を積極的に書いてください。</p> <p>なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、出版社社員、大学事務職員、大学図書館、公共図書館の司書として勤務経験を生かし、現場での問題解決や利用者とのコミュニケーションなど実践的な知識、技能、理論に基づく教育を行う</p>

授業科目	学習指導と学校図書館						
担当教員	木内公一郎						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	自由	単位数	2	授業コード	M1020030
免許資格 関連事項	○司書教諭免許状						

授業の概要	<p>受講者が学校図書館活用教育を展開するために必要な知識・技能として、学習指導における学校図書館メディア活用について理解することを目標とする。教育課程と学校図書館、発達段階に応じた学校図書館メディアの選択、児童生徒の学校図書館メディア活用能力の育成、学習過程における学校図書館メディア活用の実際、学習指導における学校図書館の活用、情報サービス（レファレンスサービス等）など、教員への支援と働きかけ等について解説する。</p>
授業の到達目標	<p>受講生は以下の項目ができるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校図書館に求められている読書センター、学習・情報センターとしての機能のうち、学習・情報センターの機能についての基本的理解。(知識) 2. 学校図書館が児童生徒の情報活用能力を育む役割を持つことを踏まえ、情報活用能力の育成について理論として理解する。(知識) 3. 情報活用能力の育成の内容と方法を理解し、実践できるようになる。(技能) 4. 情報教育を担う司書教諭の役割を自覚できるようになる。(態度)
授業計画	<p>第1回 教育課程と学校図書館：学校図書館と学習指導の展開の関わりを説明する。 第2回 学校図書館メディアの特徴：発達段階を踏まえ、どのような特徴があるかを説明する。 第3回 学校図書館メディア活用能力育成(1)：メディア活用能力の意義と目的について説明する。第 4回 学校図書館メディア活用能力育成(2)：児童生徒のメディア活用能力育成の内容を説明する。 第5回 学校図書館メディア活用能力育成(3)：メディア活用能力育成の指導方法を説明する。 第6回 学校図書館メディア活用能力育成(4)：メディア活用能力育成の計画と作成手順を説明する。 第7回 学校図書館メディア活用能力育成(5)：メディア活用能力育成教育の評価と改善を説明する。 第8回 学校図書館メディア活用の実際：学習過程と図書館メディアの関わりを説明する。 第9回 学習指導における学校図書館の活用(1)：科における学校図書館の活用を説明する。 第10回 学習指導における学校図書館の活用(2)：総合的学習の時間における学校図書館の活用を説明する。 第11回 学校図書館における情報サービス(1)：情報サービスの意義と情報サービスの実際 第12回 学校図書館における情報サービス(2)：児童生徒に対する情報サービスについて説明する。 第13回 学校図書館における情報サービス(3)：教職員に対する情報サービスと教育活動への支援について説明する。 第14回 教師への支援と働きかけ：学校図書館と教職員との関わり方を説明する。 第15回 まとめ：いままでの授業を踏まえ、メディア教育を進める上での司書教諭のあり方を議論する。</p>
テキスト	齋藤泰則『学習指導と学校図書館』樹村房、2016(司書教諭テキストシリーズII 3)
参考文献	授業中に指示する
評価方法	レポート(70%) 授業中の演習課題(30%)
自己学習に関する指針	・授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むこと。・予習としてテキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の指導・留意点	<p>質問はいつでも受け付けます。E-mail, オフィスアワーを十分に活用してください。またリアクションペーパーを毎回配布しますので、質問や意見を積極的に書いてください。</p> <p>なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、出版社社員、大学事務職員、大学図書館、公共図書館の司書として勤務経験を生かし、現場での問題解決や利用者とのコミュニケーションなど実践的な知識、技能、理論に基づく教育を行う</p>